

もう大きな地震なんて
来ないんじゃない？

台風が来ても、いつも
大したことないし。

本当に大丈夫ですか？ もしものときの備え

大切なのは、一人ひとりが取り組む防災です！

今年も台風の発生と日本への接近・上陸が多く見られる季節となりました。災害時には、自分と家族の身を守る「自助」、隣近所や地域で助け合う「共助」、行政や消防、警察等による支援の「公助」の連携が重要ですが、災害が発生した直後に、特に大切なのが「自助」です。

皆さんは、日ごろから災害に備えていますか？平成25年度に全戸配布した「東海村自然災害ハザードマップ」や、村内の公共施設に備え付けてある「防災カード」(災害時の身の守り方や安否確認の方法等を記載したカード)を参考に、災害への備えについて考えてみましょう。



【問い合わせ】

防災原子力安全課消防防災・原子力安全担当(☎282-1711 内線1524)

ここで挙げたものは、“自分でできる備え(自助)”のごく一部です。確認や備えが必要な事項は、各自・各家庭で異なります。事前にしっかり準備しておきましょう。



皆さんの“日ごろの備え度”をチェック！

- 気象情報や村からの避難情報等を収集する方法を知っている。
- 自分の住んでいる地域の基幹避難所を知っている。
- 日中の家族の居場所や連絡先を知っている。
- もしものときの安否確認の方法を知っている。
- 家族が離れ離れになったときの集合場所や行動が決まっている。
- 役場や消防署、交番、インフラ関係者等の連絡先を知っている。
- 懐中電灯や携帯ラジオ、貴重品等、非常持ち出し品について、常に持ち出せるよう準備している。
- 3日分の食料・飲料等、備蓄品を用意してあり、置いてある場所が分かる。
- 災害時の備えや行動について、家族で話し合い、情報を共有している。



こちらは、防災とうかいです

Vol. 4

災害時の情報収集手段

今回は、いざというときに、村などからの情報をどのように収集すればよいのかをご紹介します。

●防災行政無線放送

防災行政無線放送の戸別受信機は正常に作動していますか？村では、災害時における情報提供手段の一つとして、屋外放送塔を整備しており、戸別受信機は、その放送を屋内で聞けるものです。新たに転入した世帯にも無償で貸与していますので、お持ちでない方や故障してしまった方は、防災原子力安全課までお越しください。

●全国瞬時警報システム(J-ALERT)

村では、J-ALERT(緊急情報を住民へ瞬時に伝達する国のシステム)の機能を防災行政無線放送と連動させており、例えば深夜の津波警報等、災害発生までに時間的余裕がないと見込まれるときには、気象庁等から得た情報を迅速に防災行政無線から放送できるよう設定しています。



●緊急速報メール

国や県、村では、村内にある携帯電話やスマートフォンにメールを発信できる緊急速報メールを導入しており、非常事態をいち早く文字情報でお知らせすることができます。

●SNS

フェイスブックやツイッターなどを活用して、村からの緊急情報をタイムリーに発信します。

●防災情報ネットワークシステム

災害が発生した場合には、基幹避難所として、各コミュニティセンターや総合福祉センター「絆」、総合体育館を他の避難所に優先して開設します。その際に、村災害対策本部からの情報をいち早く得られるように、基幹避難所のロビーなどに設置しているディスプレイに避難所開設情報や被害状況、避難指示の内容などを文字や写真で映し出します。

【問い合わせ】

防災原子力安全課消防防災・原子力安全担当(☎282-1711 内線1524)